



名古屋工業大学
産業戦略工学専攻 助教

宮川 鈴衣奈

6

ROLE MODEL

PROFILE

2007年3月三重大学工学部 電気電子工学科 卒業。
2012年3月三重大学大学院 工学研究科材料科学専攻 博士後期課程修了。博士（工学）
2012年4月名古屋工業大学大学院 産業戦略工学専攻 助教。現在に至る。

物理で生活を豊かにする技術に 貢献していくところが魅力です。

研究内容

物理と生活とを技術で
繋いでいるところが面白い

半導体の結晶成長や表面処理の研究をしています。主に、電力を制御する半導体デバイスを対象にし、省エネルギー社会に貢献できる技術開発に取り組んでいます。例えば、飛行機やリニアモーターカーなどのような大きな電力や高周波数で制御するデバイスで、そのデバイスを構成している材料の特性を活かせるように、レーザーを使って原子配列を制御したり半導体膜を作ったりしています。原子や電子のふるまいを機能化させるための研究なので、材料と向き合い、技術で材料の良さをいかに引き出せるかに重きを置いています。このような物理と社会で実際に役立つ技術の間を繋いでいるところが面白いと思います。実験が仮説通りにうまくいった時はもちろんのこと、仮説通りにいかなくとも、その理由がわかった時にはやりがいを感じますね。

研究者への道のり

学科を超えた研究者の交流や
充実の環境が名工大の魅力

小さい頃から研究者を目指していたわけではなく、実験や研究が好きでずっと続けていければいいと思い、工学部に進学しました。修士課程のときに海外の学会に参加して、そこで出会った各国の先生方や研究者から、この分野で研究を続けていきたいなら博士課程に進学するべき、とのアドバイスをいただいたのが研究者として生きていく決心になりました。三重大学で学位を取得した後、名古屋工業大学産業戦略工学専攻の助教のポストに応募しました。名古屋工業大学は学科を超えて研究者同士の交流があるのがいいですね。もちろん設備面でも、共同で使える施設「大型設備基盤センター」があって、私のように若手で大型の評価設備を所有していない研究者にとってはすごくありがたいです。

工学の魅力・女性の工学について

女性だからではなく
一人の研究者として

工学の魅力は、例えば材料の可能性や物理が人々の生活を支えたり、生活を豊かにする技術を繋いでいるところ。私の研究も近未来的な技術に应用されることを期待しています。今の時代は、女性という理由で研究者として不利になることはなく、むしろ研究活動を奨励される環境があり、恵まれていると思います。しかし、マスコミなどには、女性ということだけにしか目を向けてもらえないことがあるのも事実です。悲しく感じることもある反面、研究にも着目してもらえるチャンスと捉えています。女性という立場に頼ったり悩むのではなく、一人の研究者として成し遂げるべきことに取り組んできたいと考えています。自分が好きなことを追求し、それを技術として社会に貢献できる感動を、周りの研究者や学生と共有していきたいと思っています。

2014年に第7回 資生堂 女性研究者サイエンスグラントを受賞したことがきっかけで、様々な分野の女性研究者との交流の機会も増え、視野も広がりました。また大学内や高校でもお話をする機会をいただくようになり、活動を通じて工学部の女性研究者としての自分自身に向き合う良いきっかけにもなりましたね。

まずは自分が何を好きで、何をしたいのかを一番に考えて道を選択してほしい。そうすればその先で生じる悩みや辛さは必ず解決できると思います。

学生の皆さんへ